

とと通信

2022年2月17日発行

227号

「とと通信」は
略してとつ。
いつも読んでいただき
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。立春とはいえ、まだまだ寒い日が続いています。お元氣でお過ごしでしょうか？さて先日、静岡県御殿場市へ研修に行ってきた。目の前には壮大な富士山が見え、空気が澄んだ清々しい所で、その日は何年ぶりの大雪でした。まさに研修日和。多くの学びと気づきがありました。これからの人生に生かしたいと思います。



お金の出口を考える

私は22歳の時、業務用カラオケ機器を扱う会社へ入社しました。当時のカラオケは歌謡なんてテレビに出ません。歌詞カードを見て歌っていました。8トラックカラオケと言って、カセットテープの大きなものを、ガチャとセットし、歌います。スナックの壁には、何百本と8トラックテープが並んでいました。もちろんカラオケボックスはまだ無い時代で、カラオケと言えば、もっぱら酔っぱらったサラリーマンの娯楽といったイメージでした。私はプライベートでスナック

へ行ったことも無いのに、スナックを巡回する部署へ配属されます。で、この8トラックカラオケが厄介なのです。テープがかみこんだり、コインが詰まったり、よく壊れるのです。夜の9時頃にポケトベルが鳴ります。会社へ電話すると、「中洲の〇〇さんのカラオケが故障しています。至急行って下さい」。訪問すると店内は、カラオケが歌えずイライラしているサラリーマンでいっぱい。殺伐とした雰囲気の中、早く直せと怒られます。私は仕事にやりがいを見つけれず、カラオケという機械が好きになれませんでした。久しぶりに会った友達から、「今何してるん？」と聞かれても、うまく答えられず、どこか引け目を感じている自分がいました。そんなある日のこと。まだオープン前のお客さまが来店していない薄暗い店内でカラオケのレンタル代を集金していた時の話です。コインボックスに入っている百円玉を半分ずつに分け、半分をレンタル代としていただき、もう半分をママさんにお渡ししました。

するとママさんが「ありがとう。この百円玉でね、二人の息子を大学まで行かせたの。このカラオケのおかげよ」と言っていてカラオケを拭き始めたのです。私は驚きました。サラリーマンが歌った百円玉が、大学の学費に変わっていたからです。お金の使われ方、出口を今まで考えたことがありませんでした。私もお客さまのお役に立っているんだと思ったら嬉しくなり、「カラオケっていいじゃんって、ちょっとだけ好きになり、その日を境に、仕事への意識が徐々に変わってきました。話は変わります。スナックのママは接客業のプロです。営業の視点からもう勉強になる事が沢山ありました。例えば、お客さまに、1ヶ月で30万円も、毎月コインボックスに入る、お店がありました。一曲二百円ですから、一日60曲歌うことになります。これは単月なら出来ても、毎月コンスタントとなると難しいのです。なぜなら歌ってもらおう仕掛けが必要だからです。私はママさんに、いったいどんなことをされているのか尋ねました。



すると、お客様の情報を書くノートを作っていて、毎回、歌った歌をメモしているとのこと。そのお客さまが来られたら、カウボーイの下で、そのノットを見て、「この前歌った長瀬剛のトンぼを歌ってよ。もう一度聞きたーい」と言えば、お客さまは喜んで歌っていただけます。また前回どんな会話をしたか要点もメモっていて、「この前お話されていた〇〇はどうなりましたか？」と聞けば、気持ちよく話して下さいます。とのことでした。まさにプロです。やっぱり人は、自分のことを覚えていてくれる人には、好意を持つものです。そんな人には、何度も会いたくなりますね。これはいい話を聞いたと、当時の私は、商談中の雑談をメモって、実践したものでした。ところが現在はどうでしょう。「ごめんなさい、お刺し交換をしたことはありましたが、お会いするのは初めてでしょうか」なんて相手には聞かれません。お恥かしい限りです。これを書きながら反省しました。私の名刺が何枚もお手元にある方。どうかお許し下さいませ。

発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ : <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ : <https://itorinri.com/>